

オホーツク地区サッカー協会技術委員会 TSG 報告

- 1 対 象 令和元年度第50回オホーツク中学校サッカー大会
- 2 大会期間 2019年6月29日(土)・30日(日)・7月6日(土)
- 3 試合会場 えんがる球技場(紋別郡遠軽町福路2-1-2)
- 4 大会結果 優勝: 網走市立第三中学校
準優勝: 遠軽町立遠軽中学校
3位: 遠軽町立南中学校
: 美幌町立美幌中学校
- 5 報告者 武田 健介(北海道紋別高等学校) B級ライセンス
田中 克貴(北海道北見北斗高等学校) C級ライセンス
- 6 対象試合 美幌町立北中学校 vs 網走市立第三中学校
トーナメント方式 25分-5分-25分 延長なしPK
結果: 美幌北中学校 $\left(\begin{array}{c} 0-0 \\ (PK 2-4) \end{array} \right)$ 網走第三中学校
- 7 分析結果

美幌北中

4-4-2のシステムでスタート。FW⑩と⑪を起点に攻撃し、サイドも効果的に使いながら、相手陣内に攻め込む時間帯が続いた。しかし、アタッキングサードで効果的なサポートや崩しができず、ボールを奪われ相手にカウンターを許す場面が見られた。また、パスコースに相手がいるにも関わらず、味方の動きだけを観てパスを選択



し、簡単にパスミスをしてしまう場面も多く見られた。正確にボールを止める・蹴る個人技術にも課題はあるが、いつどこで誰がどのタイミングでポジションにつくかを理解させ、サポートや崩しの質を向上させること、相手の状況を観てテクニックを発揮できることが課題だと感じた。

試合は、前後半ともに美幌北が押し込む時間帯が多かったが、得点に結びつく決定的な場面をあまり作り出すことができずに、引き分け(PK2-4)に終わった。試合後のインタビューに答えていただいた吉川健太監督は、「前線でボールを受けた選手に対してのサポートが足りなく、なかなかシュートやフィニッシュまで繋げていくことができなかった。また、ゴールへ向かう迫りも少なく、日常のトレーニングから守備への声かけを更に高めて、攻撃の質を高められるようにしていきたい。」と、話していた。

守備面では、CB③の守備能力の高さが目立った。相手の鋭い縦への攻撃に対して、ボールの出所やドリブルの方向を常に予測し、ねらいをもって積極的にボールを奪いにいく姿勢が見られた。しかし、チーム全体としては、CB③のカバーがない場面が多く見られるなど、CB③頼みの守備になっている印象を受けた。チャレンジ&カバーを習慣化していくことで、チームの守備もレベルアップすると感じた。

網走第三中

4-2-3-1のシステムでスタート。美幌北の攻撃を粘り強い守備で跳ね返し、ワントップのFW⑩を起点にカウンターを仕掛けて、相手ゴール前に迫る場面が何度か見られた。しかし、多くの場面でFW⑩が前線で孤立し、相手CB③の厳しいプレスにより、ボールを失うことが多かった。



FW⑩の下に位置する3選手が、上手くサポートに入ることができれば、攻撃に幅と厚みを作り出せたと思われる。また、相手のアプローチに対して簡単にボールを失ってしまう場面も多く見られた。グループとして効果的な関わりができること、プレスの強弱によってパスをするかドリブルをするかを素早く選択し、的確に判断できることが課題だと感じた。山本悠司監督は、「特に攻撃面では、連動して組織的に関わるのが少なく、個での打開に頼る戦いでした。選手の距離感が悪く、FW⑩を孤立させてしまった試合展開となり、なかなかチャンスを作り出せなかった。」と、話していた。

守備面では、相手をペナルティエリア内へ進入させない意識がチーム全体に浸透しており、チャレンジ&カバーが徹底されていた。1stDFがはっきりしているため、フリーな状態でシュートを打たせることはなかった。また、ペナルティエリア付近でドリブル突破を仕掛けてくる相手に対しても、人数をかけて集結しながら粘り強く守ることができていた。

総括

両チームとも特に攻撃時における前線の崩しに課題が見られた。関わりが少なく、攻撃に厚みを作り出すことが困難になってしまったため、意図的に相手守備陣を崩す場面が少なかった。前線の崩しに必要な味方選手のサポート（関わり）が重要であり、今後は前線において、相手の変化を観ながら味方選手が関わり合うことを意識させたトレーニングが必要であると感じた。

8 トレーニングの提案

テーマ：【前線の崩しTR2】

方法：①コーチから GK に配球してスタート。
②前の選手にくさびを当てる or スループスで攻撃側1人が相手陣地に入ることができる。
③ドリブルで入ることは禁止。
④オフサイドはDFライン。
⑤3-2の2ラインが基本。
⑥選手の入替わり OK。
⑦GK もかかわりボールを動かしながらアングルを変える。

3vs2+2vs3+GK

40mペナ幅

25m

25m

GK

GK

〈Key Factor〉

- ・観る（ボールとゴール、相手、味方、スペース、）
- ・パスの質
- ・ファーストタッチの質
- ・動き出しのタイミング（インフォメーションの共有）

○3人目のポジション取りによって、空いたスペースを攻略することを理解させ、動きながらの技術と常に関わる意識を定着させることが目的。

○このトレーニングによって、オフの選手のサポートの質を高められると考える。ボールに関わる選手だけでなく、オフの状態にある選手への声かけが重要である。

○よりタフでスピーディーなゲーム展開に対応するために、守備側への声かけも忘れてはならない。日常から全力・全速でボールを奪う習慣を身に付けさせ、同時に攻撃側の質も高められるよう配慮する。

以上